

平成 27 年（2015 年）の磐梯山の火山活動

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

一時的に火山性地震が多くなることがありましたが、地震活動及び噴気活動は概ね低調で、地殻変動にも特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2015 年の発表履歴

2015 年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）
-------------	-----------------------------

○ 2015 年の活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1～5、図 6-①）

剣ヶ峰に設置している遠望カメラによる観測では、山体北側火口壁からの噴気の高さは概ね 100 m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

1 月 14 日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、2014 年 1 月 20 日と比較して、沼ノ平噴気地帯及び山体北側火口壁噴気地帯の噴気と地熱域¹⁾に特段の変化は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 6-②～⑥）

6 月に山頂付近を震源とする火山性地震が一時的に多い状態となりましたが、それ以外の期間、地震回数は少ない状態で経過しました。

・ 地殻変動の状況（図 7、図 9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

図 1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況（12 月 24 日）

- ・ 剣ヶ峰（山頂の北約 7 km）に設置している遠望カメラの映像です。
- ・ 実線赤丸で囲んだ部分が山体北側火口壁からの白色噴気で、高さは左下が 70m、右上が 10m です。



1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料は、気象庁のデータの他、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。

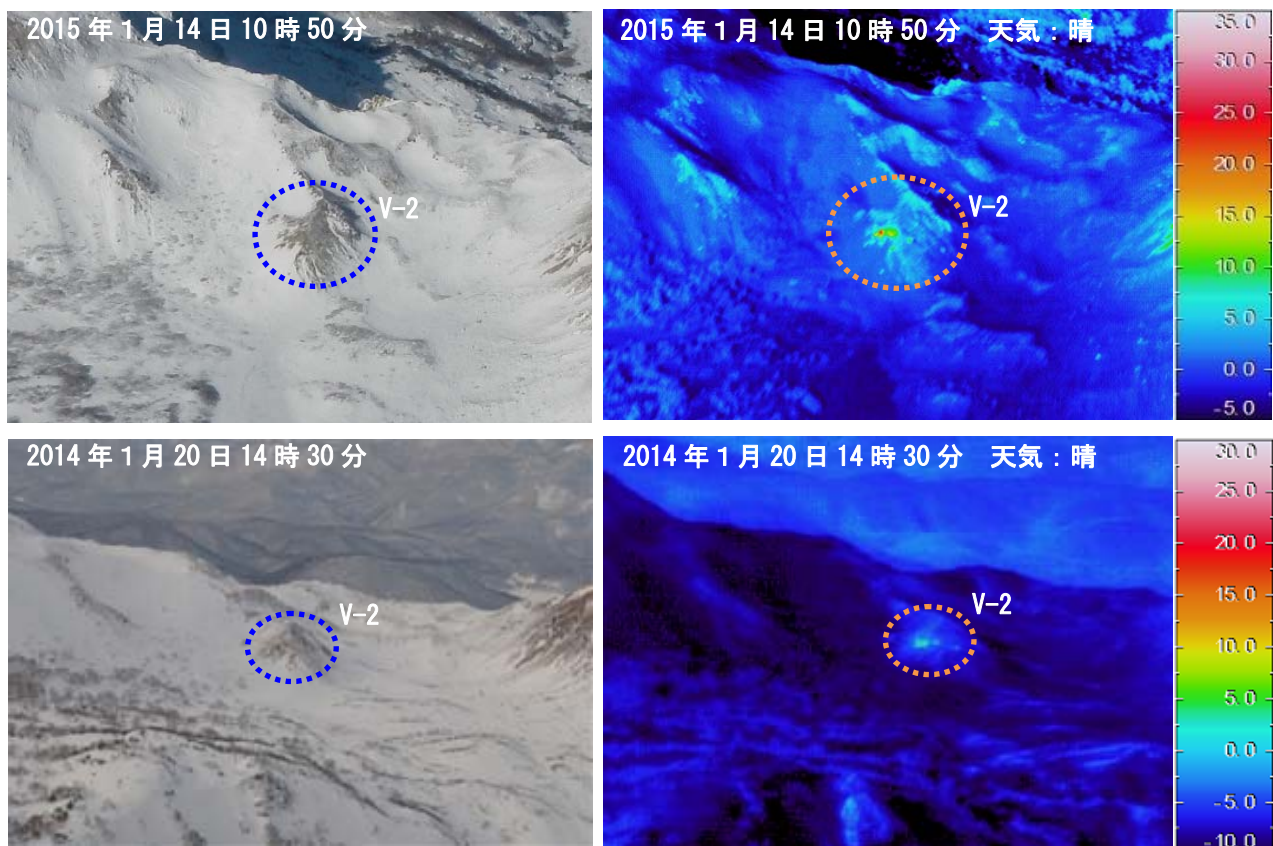
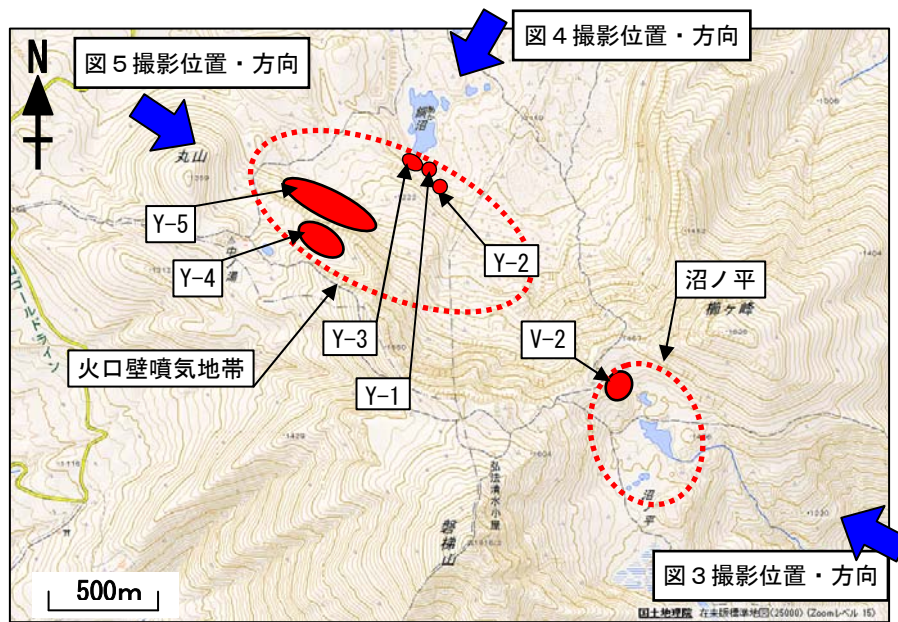


図 3 磐梯山 沼ノ平 (V-2) の状況と地表面温度分布

- ・陸上自衛隊の協力により撮影しました。
 - ・前回 (2014 年 1 月 20 日) と比較して、地熱域に特段の変化は認められませんでした。
- ※破線領域以外の温度の高い部分は日射による影響です。

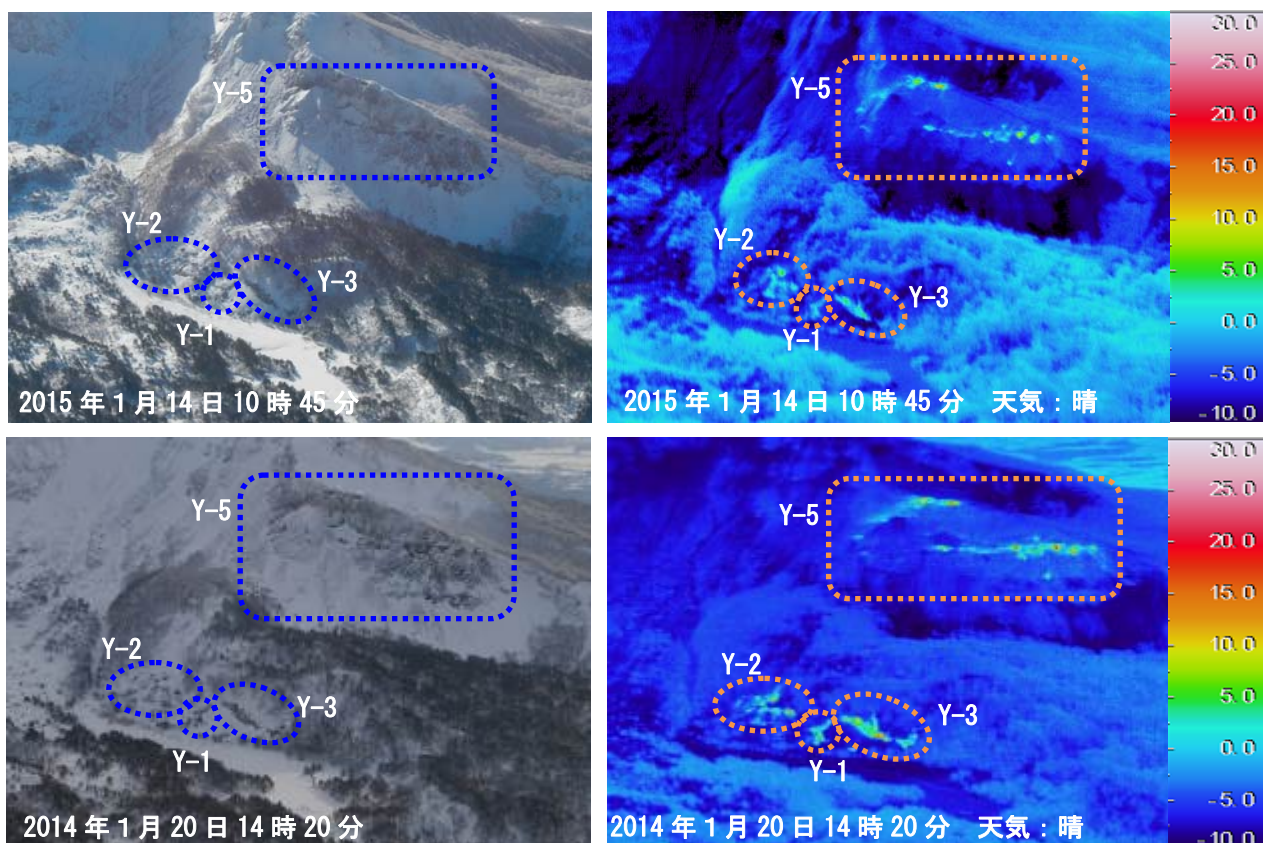


図 4 磐梯山 火口壁噴気地帯（Y-1、2、3、5）の状況と地表面温度分布

- ・陸上自衛隊の協力により撮影しました。
- ・前回（2014 年 1 月 20 日）と比較して、地熱域に特段の変化は認められませんでした。

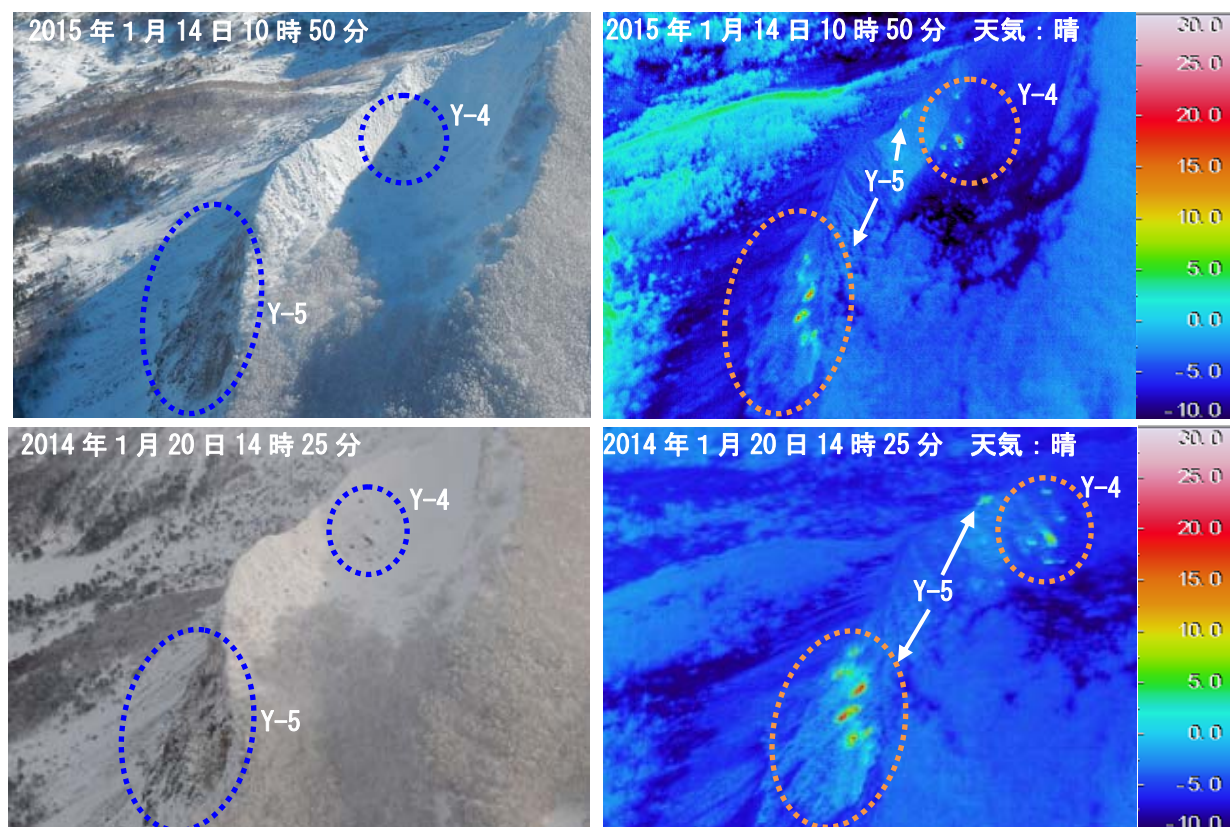


図 5 磐梯山 火口壁噴気地帯（Y-4、5）の状況と地表面温度分布

- ・陸上自衛隊の協力により撮影しました。
 - ・前回（2014 年 1 月 20 日）と比較して、噴気・融雪域に特段の変化は認められませんでした。
- ※破線領域以外の温度の高い部分は日射による影響です。

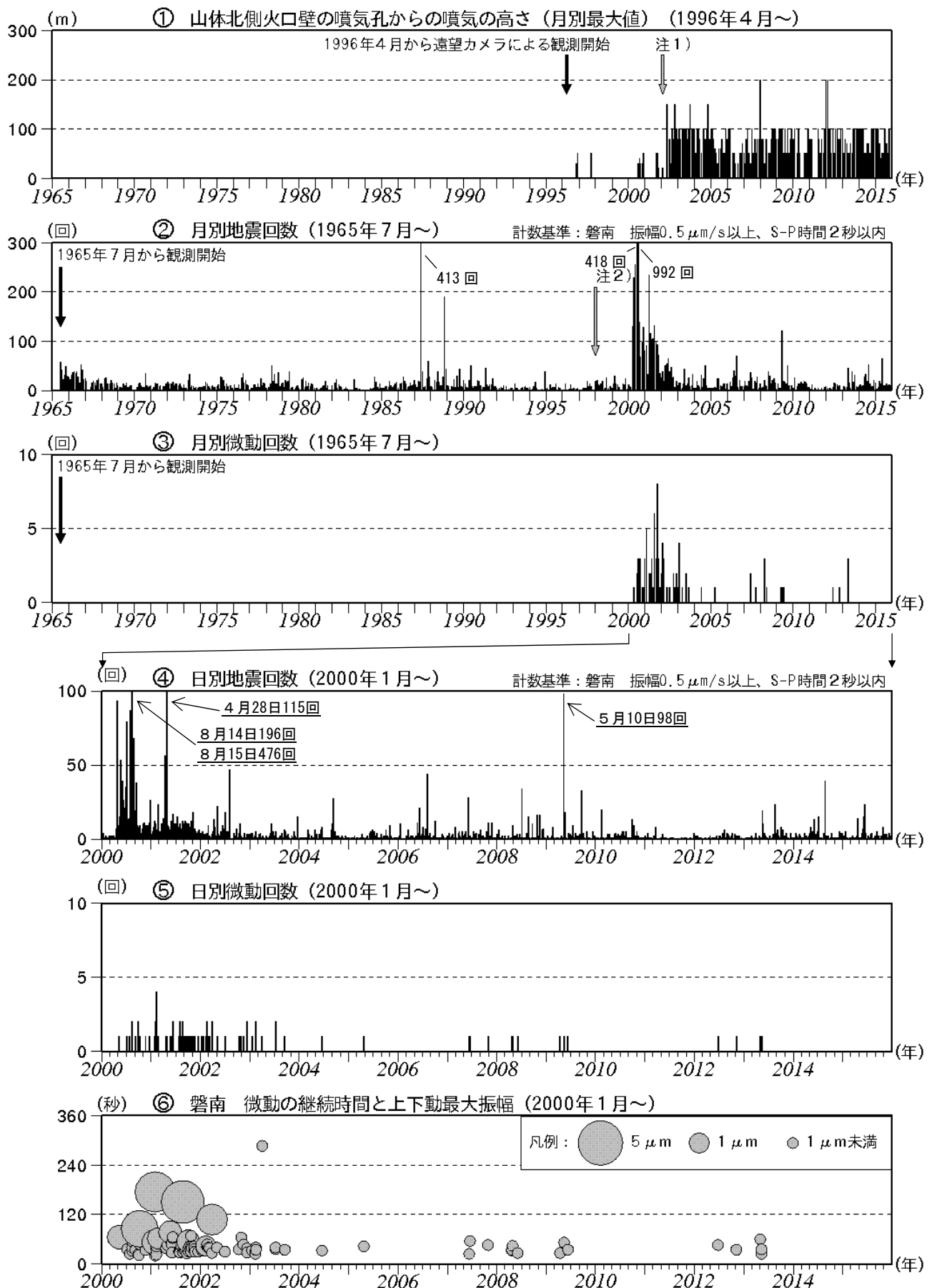
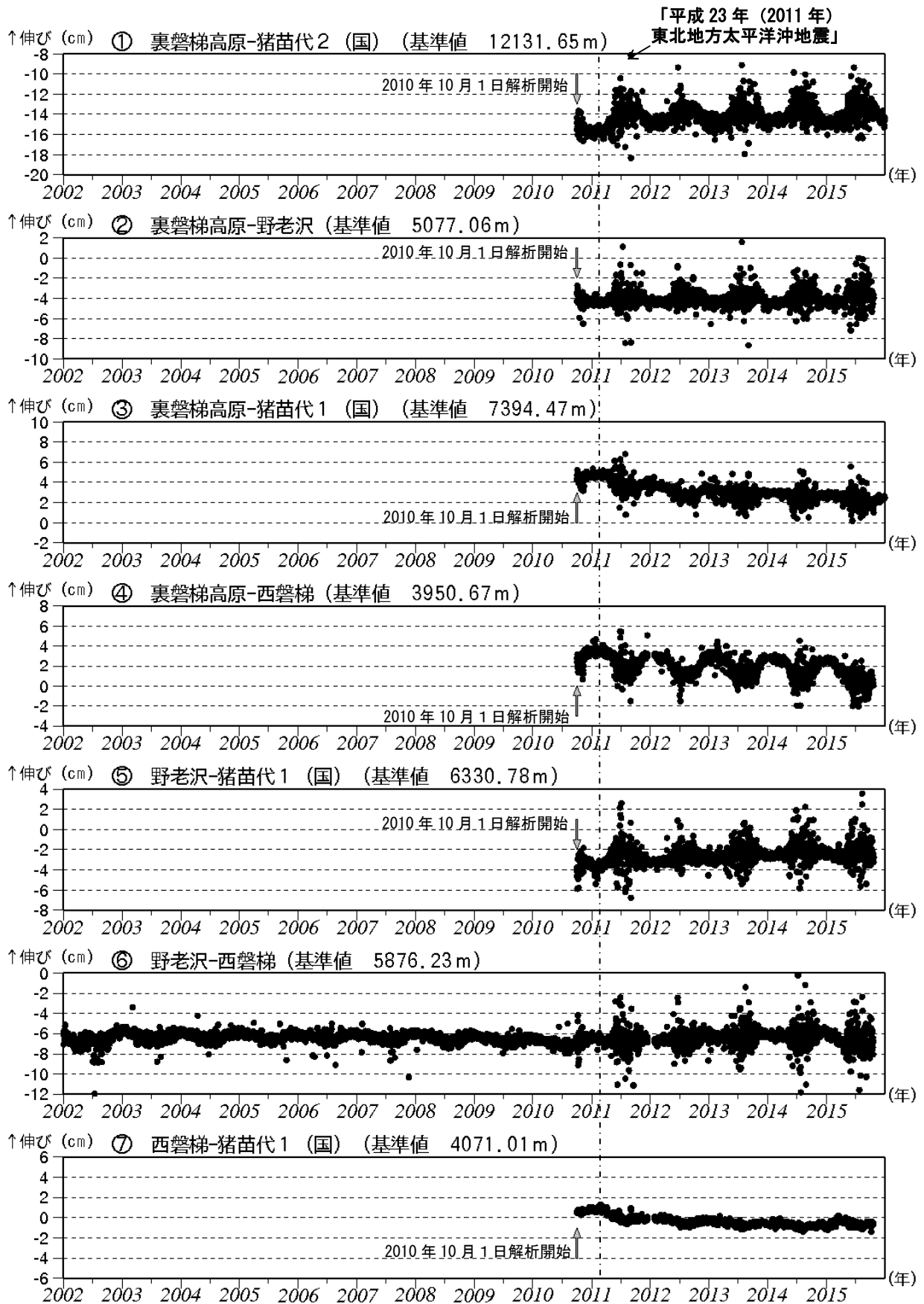


図6 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2015年12月）

- ・①注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ・②注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以内からS-P2秒以内に変更しました。

図 7 磐梯山 GNSS²⁾ 基線長変化図 (2002 年 1 月～2015 年 12 月)

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

- ・今期間は火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。
- ・2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑦は図 9 の GNSS 基線①～⑦に対応しています。・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

(国) : 国土地理院

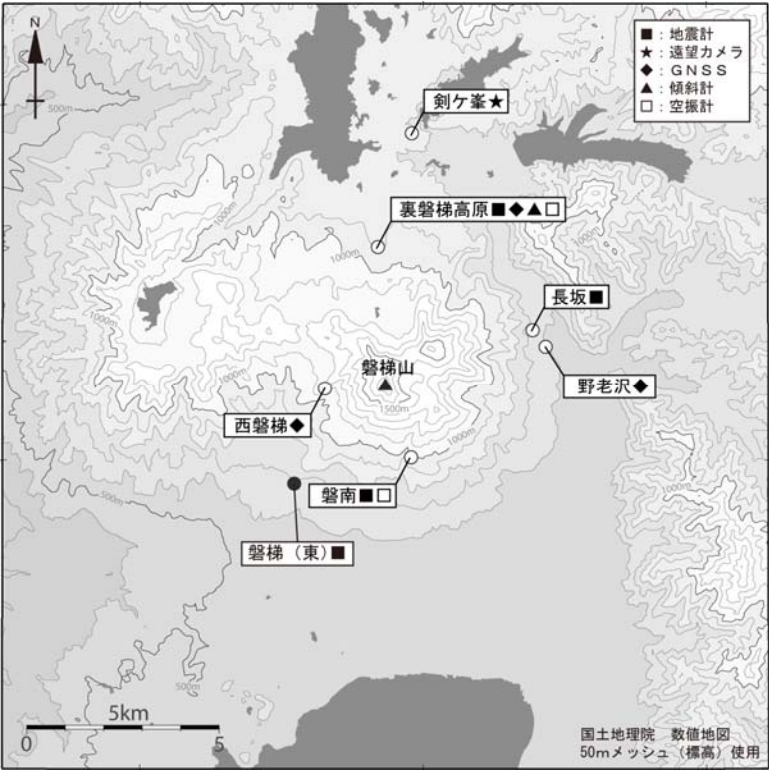


図 8 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学

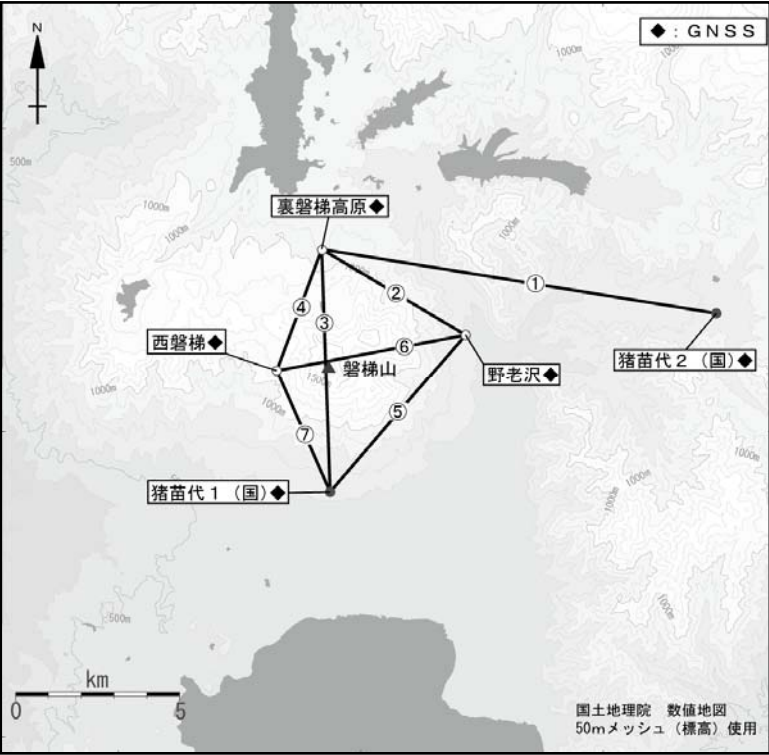


図 9 磐梯山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

表 1 磐梯山 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高 (m)			
地震計	磐南	37° 35.04′	140° 04.79′	1000		1965.4.1	短周期 3成分 2000年11月2日：現在の場所に移設
	長坂	37° 36.84′	140° 06.93′	650		2005.12.8	短周期 3成分
	裏磐梯高原	37° 38.01′	140° 04.20′	902	-98	2010.9.1	短周期 3成分 ポアホール型
空振計	磐南	37° 35.0′	140° 04.8′	1000		2000.11.2	
	裏磐梯高原	37° 38.0′	140° 04.2′	902	3	2010.9.1	
傾斜計	裏磐梯高原	37° 38.0′	140° 04.2′	902	-98	2011.4.1	
GNSS	野老沢	37° 36.6′	140° 07.2′	613		2000.9.6	1周波
	西磐梯	37° 36.0′	140° 03.3′	1189		2000.9.7	1周波
	裏磐梯高原	37° 38.0′	140° 04.2′	901	4	2010.10.1	2周波
遠望カメラ	剣ヶ峰	37° 39.6′	140° 04.8′	810		1996.4.1	